

2月3日(土)、4日(日)の2日間、東京大学において、第5回全国海洋教育サミットが開催されました。今回のテーマは「海でつながり生まれる学び」で、様々なつながりを感じられる大会となりました。



1日目は、開会セレモニーのあと、海洋教育教員研修プログラムの成果報告会があり、三浦市で行われたフォローアップ研修にも触れられました。次に、海洋教育パイオニアスクールプログラムの成果報告会が行われ、3つの学校の取組が発表されました。そして、パイオニアスクール・フォトコンテストの入賞作品の紹介と表彰が行われた後、海洋教育の展開に関する協議が行われました。その中では、「聞き書きをとおして、地域の方々とのつながりができた」、「海洋教育は、アクティブラーニングと相性がいい」、「海洋と〇〇をつなげるといふ考え方が大切」等の意見が印象的でした。最後に、文部科学省の方が、講評で「海洋教育には、様々な側面があり、横断的・総合的な学びに適している」、「海洋教育に取り組むことにより、先生や学校が変わる」、「海洋教育で何を育てたいのか、が大切」等のまとめをされていました。

2日目は、安田講堂に会場を移し、海洋教育促進拠点、研究拠点(三浦市は研究拠点になっています)の児童・生徒と教員によるディスカッションから始まりました。それぞれの児童・生徒が堂々と発表していました。「答えのある問題から、答えのない問いに、海には無限大の問いがある」、「聞くこと中心のコミュニケーションの大切さ」、「海をとおして、文化や伝統がつながる」等の視点が示され、大変参考になりました。



その後、ポスターセッションに移り、三浦市からは、岬陽小学校、名向小学校が参加し、それぞれ、マグロの学習、真珠の授業の取組の発表をしました。三浦市からは、発表者の加藤先生(岬陽小)、小倉先生(名向小)をはじめ、山田岬陽小校長先生、教員研修プログラム参加者の中山旭小教頭先生、八巻学校教育課長、高梨指導主事、そして本研究所職員2名を合わせて、2日間延べ9名が参加しました。



去る12月23日(土)に、青山のTEPIA先端技術館において、サイエンスキャスル2017関東大会が開かれ、初声中学校の生徒2人が参加しました。2人のテーマは「三浦の海の生物種の変化」で、ショウジンガニを対象にした研究の成果を発表しました。ショウジンガニは、海水温の上昇に弱く、減少しているそうです。三浦では、イセエビのエサとして使われています。三浦市が進めている海洋教育の成果の一つです。

去る12月23日(土)に、青山のTEPIA先端技術館において、サイエンスキャスル2017関東大会が開かれ、初声中学校の生徒2人が参加しました。2人のテーマは「三浦の海の生物種の変化」で、ショウジンガニを対象にした研究の成果を発表しました。ショウジンガニは、海水温の上昇に弱く、減少しているそうです。三浦では、イセエビのエサとして使われています。三浦市が進めている海洋教育の成果の一つです。

去る12月23日(土)に、青山のTEPIA先端技術館において、サイエンスキャスル2017関東大会が開かれ、初声中学校の生徒2人が参加しました。2人のテーマは「三浦の海の生物種の変化」で、ショウジンガニを対象にした研究の成果を発表しました。ショウジンガニは、海水温の上昇に弱く、減少しているそうです。三浦では、イセエビのエサとして使われています。三浦市が進めている海洋教育の成果の一つです。



(文責 事務局長 渋谷)